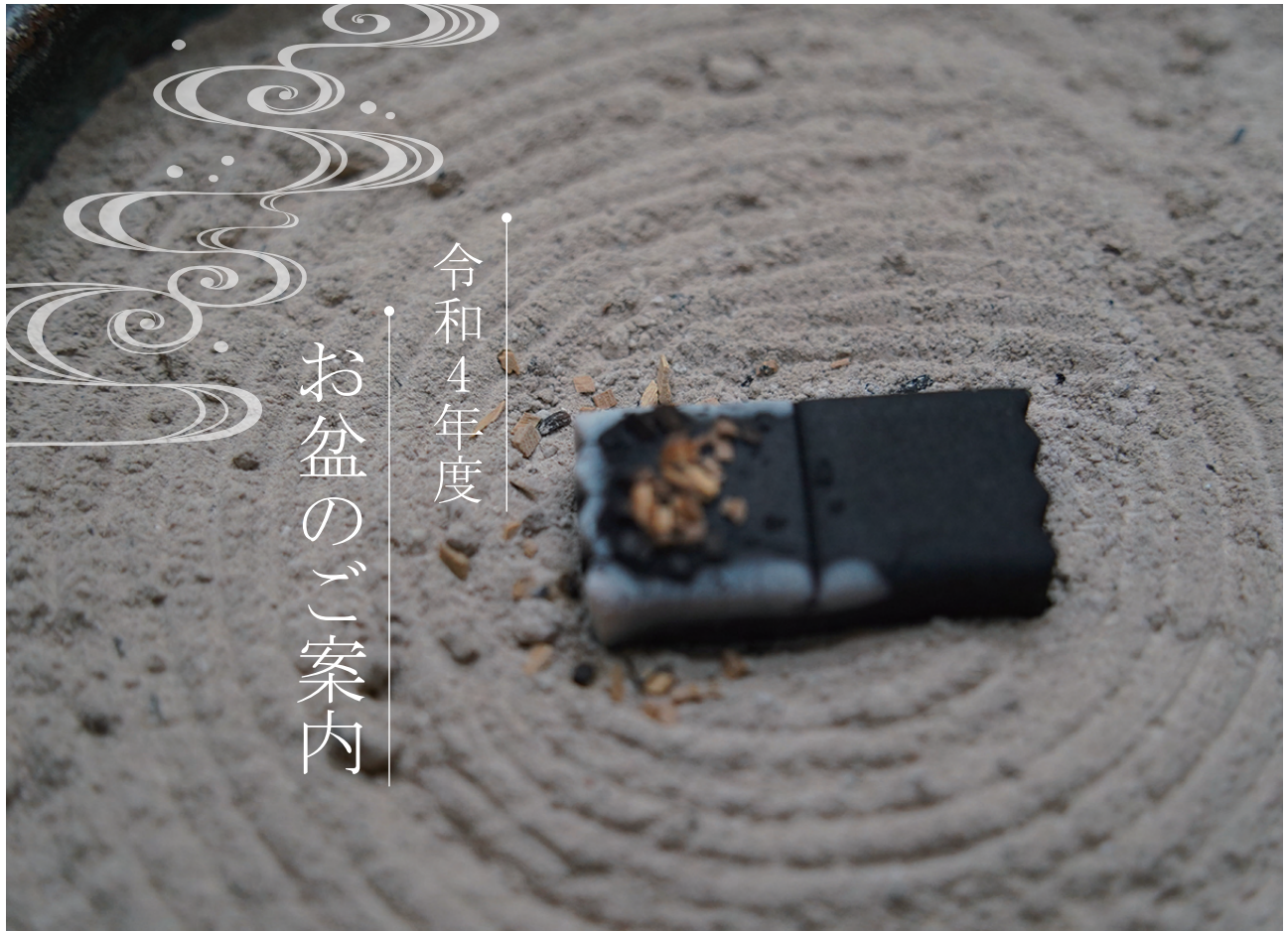


妙法寺 たより

令和四年 お盆号



令和4年度

お盆のご案内

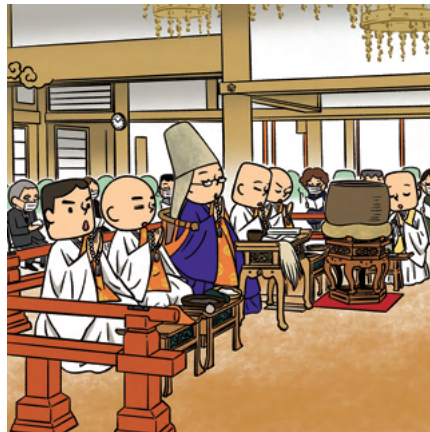
本年は例年通りご参拝いただける形で法要を営みます。
ぜひ、ご参列ください。

※マスク着用のうえご参列ください。
※参列席はソーシャルディスタンスを保っております。
※本堂での収容人数を超えた場合は客殿にてご参拝
いただきますのでご了承ください。

毎年恒例

8月16日(火)午後2時より

う ら ぼん ほう よう 盂蘭盆法要



う ら ぼん ほう よう 盂蘭盆法要【合同法要】

8月16日(火)午後2時より

お盆の個別法要

密を避け、ご都合の良い日に

個別法要期間

8月7日(日) ~ 8月15(月)

受付時間：午前9時

終了時間：午後4時



個別法要は一昨年より実施し、皆様よりご好評であったことから、今後も引き続き行つてまいります。期間中お好きなタイミングで
ご参拝ください。

※個別法要では、お申込いただきました卒塔婆に
お経を上げてお渡しいたします。

※ご自宅のお位牌をご持参ください。ご本尊様に
お供えし、ご供養いたします。
(お位牌はなくても構いません)

※お経の時間は10分程度です。



～ お盆の個別法要 お参りの手順 ～

⑤



お経が終わりまし
たら卒塔婆とお位
牌をお渡しします。
気を付けてお墓参
りください。

④



卒塔婆とお位牌に
お経を上げます。
10分程度のお経で
す。皆さまはお焼
香をお願いします。

③



ご本尊様に卒塔婆
をお供えします。
お位牌をお持ちの
場合は、係の者
にお渡しください。

②



本堂内には、お申
込いただいた卒塔
婆がありますので、
卒塔婆をお取りに
なり、係の者にお
渡しください。

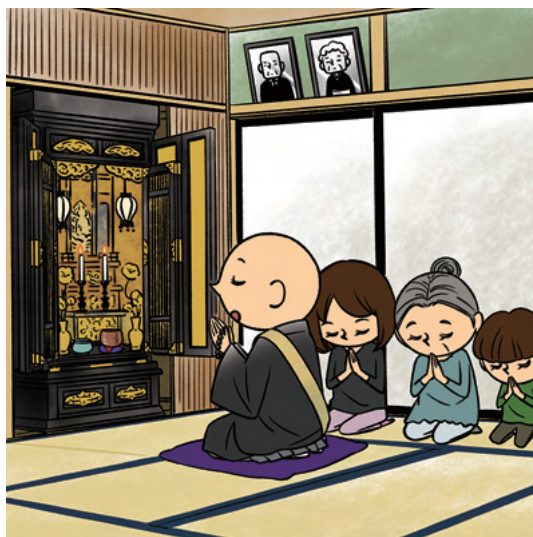
①



受付にてお布施袋
をお渡しいたき、
返礼品をお受け取
りください。

棚経

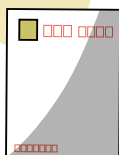
ご自宅にお盆のご供養でお伺いします



※棚経は、7月にお伺いいたします。下欄の「棚経の日程」をご参照ください。

※棚経を新規でご希望の方は、7月9日までに電話でお申込ください。昨年伺った方は例年通り伺います。

※お伺いするお宅には、改めて日時をお知らせするハガキをお送りします。



棚経の日程 7月

- 10日(日) 港南・南・保土ヶ谷区
- 11日(月) 磯子・中・鶴見・都筑・港北・緑区
- 12日(火) 西・神奈川区
- 13日(水) 旭区
- 14日(木) 栄区・鎌倉・藤沢
- 15日(金) 戸塚区
- 16日(土) 瀬谷・泉区
- 17日(日) 下・上矢部方面
- 18日(月) 歌舞伎方面
- 19日(火) 中村・金房方面

お盆のお飾りについて

お仏壇のお飾りは、棚経の時に合わせていただいても、今まで通りの時期に飾っていただいても構いません。

お盆のお飾りで大事な点は「末永く続けられる」ことであります。ご供養は川の流れるように長く続けていくものです。

毎年のお飾りは無理をせず、仏具店などで販売されているお盆用品を上手く使いながら、好物だった物、故郷の食べ物など、心のこもったお供えやお飾りを一つ二つ供えていただくのがよいと考えます。



上記に記載されていない地域の方は、お手数乍らお問い合わせください。

7月末日までに

お申込みください



お盆卒塔婆中込書

家系世代の区別書

	重位	重位	重位	重位	重位
氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
生年	生年	生年	生年	生年	生年
没年	没年	没年	没年	没年	没年
備考	備考	備考	備考	備考	備考

印
お盆下巻地に宛くるご返書をお送り下さい。

住所
氏名
生年
没年

お盆忌日は万葉集巻二におおしき事考
御盆忌日のことばをいへて三十三回にわたります。

御盆忌日係書
045-812-7976

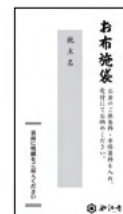
FAX: 045-812-7676

E-mail: butuji@myouhouji.jp

お盆には卒塔婆そとばをお建てして、その御心を捧げます。同封の“卒塔婆申込用紙”に必要事項をご記入いただき、7月末日迄に同封の返信封筒、またはFAX・Eメールでお申し込みください。

お布施袋を

ご利用ください



「お盆供養料・卒塔婆料・新盆供養料」は、お布施袋にお納めいただき、ご参拝の折に受付へお渡しください。

表面にはお名前を、裏面には内訳や合計金額をお書きください。

◎お盆供養料：

個別法要・孟蘭盆法要へのお布施

3千円～1万円が目安

◎卒塔婆料：

卒塔婆代 1本 3千円

気持ちよく

お参りいただくために



お盆期間中(8月7日～16日)は墓地裏口(小学校側)を臨時駐車場として開放しております。おみ足の不自由な方など、お車で直接お墓参りいただけます。

小学校の前の道路は朝の7時〜8時半まで
通学路のため進入禁止になっておりますの
でご注意ください。

8月7日～16日まで、受付にてお墓用の生花をご用意しております。

※数に限りがございますので
ご注意ください。

◎生花（お線香付き）

1
対
1
5
0
0
円

◎お線香

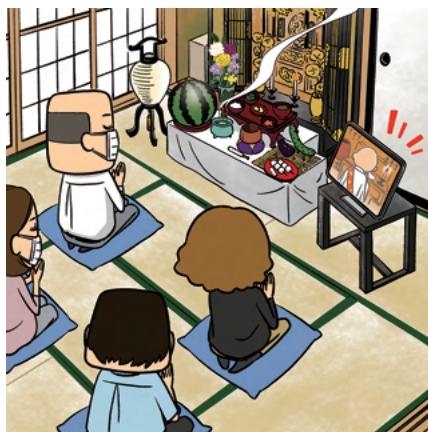
1束 100円



知以甘露瀉 除熱得清涼

オンライン法要

オンラインで自宅から参列

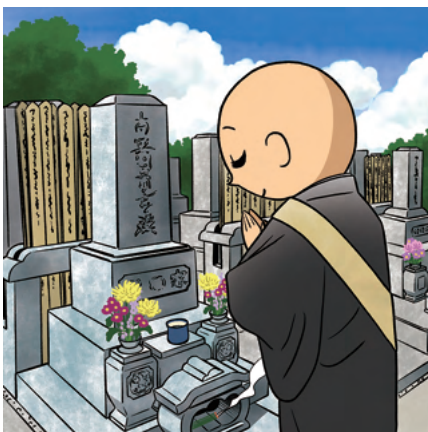


8月16日午後2時からの盂蘭盆法要（合同法要）の様子をYouTubeでライブ配信いたします。パソコンやスマートフォンにてご自宅からご参列いただけます。

当日は妙法寺のホームページからアクセスください

お墓参り代行

お墓参りに来られない方



足が悪くて
施設に入所中で
卒塔婆を供えるのが…

さまざまなご事情により、お参りに来られない方、卒塔婆を墓地に供えることが難しい方など、お申込書にその旨をお書き添えください。お寺で卒塔婆を墓地にお供えさせていただきます。

◎妙法寺に墓地がある方のみとなります。

◎卒塔婆代などは後日、郵便振替用紙を郵送します。

縁日体験

ご家族揃って

今までは、お墓参りにお越しのお子さまにはお菓子を配っておりましたが、本年は妙法寺内に駄菓子屋さんが登場!! お子さま向けに駄菓子の詰め放題イベントを8月7日〜16日まで開催いたします。お立ち寄りください。

※子ども限定



「ご寄付について」



先日、皆さまには日蓮聖人ご生誕800年記念事業の寄付募集のご案内をお送りさせていただきました。早速にご寄付をご持参くださったり、お振込をいただきました皆さまには心より感謝申し上げます。



上記のQRコードからオンラインでもご寄付いただけます。

令和6年10月までご寄付を受け付けております。引き続き、ご支援のほどお願い申し上げます。

記念事業のスタートと共に、ユネスコ無形文化遺産にも登録され、数々の国宝を修復されている東京都渋谷区の「半田九清堂」様にご真筆の引き渡しを行いました。今後、修復の進捗状況は妙法寺の公式Facebookや妙法寺だよりなどで発信してまいります。また、ご寄付をいただきました皆さまのお名前は、毎月更新して順次ホームページに掲載しております。（掲載不可の方は掲載しておりません）



半田九清堂様にご真筆を丁寧に梱包される様子

ほおずき市を開催

7月9日(土)
午前9時～午後2時頃まで



東戸塚ライオンズクラブ主催のほおずき市が2年ぶりに開催されます。ほおずき市の収益は、戸塚区社会福祉協議会や神奈川新聞厚生文化事業団などに寄付しております。ご来場の際は感染対策へのご協力をお願いいたします。



グッドデザイン賞のロゴが施された三方

妙法寺も活動を支援するようになってから7年が経過し、今までに発送した「おやつ箱」の数は734箱にも及びます。今回、おてらおやつクラブの活動と子どもたちの貧困問題を広く周知するため、全国12ヶ所の寺院で巡回展を開催することとなり、妙法寺でも6月3日～8日まで開催しました。



地元の小学生が社会科見学に来場

期間中は地元の小学生が社会科見学で来てくれたり、縁日体験ではたくさんの方が親子で来て縁日を楽しんだり、おやつ箱作り体験では色々と悩みながらお菓子を詰め、手紙も書いて、おやつが届くご家庭に心を寄せてくれました。

おてらおやつクラブ
全国巡回展を
開催しました！

「おてらおやつクラブ」は、お寺にお供えされるさまざまなものを、仏さまからのおさがりとして頂戴し、子どもをサポートする支援団体の協力の下、経済的に困難な状況にあるご家庭へおすそわけする活動です。

(おてらおやつクラブホームページより抜粋)





親子で楽しんだ“縁日体験”



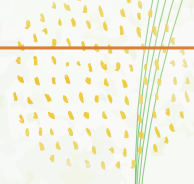
子どもたちもお手伝いしてくれた
“おやつ箱作り”



おてらおやつクラブ代表理事
松島靖朗さんによる講演

また、毎月行っている浄心道場に合わせ、おてらおやつクラブ代表理事 松島靖朗さんが活動への想いや現状をお話くださり、翌日にはおてらおやつクラブ広報の野田芳樹さんによる支援の輪を広げるための寺院や支援団体への説明会を開催いたしました。準備から開催期間中と、なかなか大変なイベントでしたが、妙法寺スタッフの協力もあり、多くの方々におてらおやつクラブの活動を知ってもらい、想いを伝えられたことはとても充実度の高い一週間になりました。ご来場いただいた皆さま、お供えをお持ちくださいました皆さまには、心から感謝申し上げます。

今回は、7月26日～31日まで東京都世田谷区の龍雲寺会館で開催されます。ぜひ足をお運びください。



日蓮聖人のお言葉をご紹介頂きながらのご法話

住職のcoffeeタイム



妙法寺だよりでここ10年ほど連載していたコラム『うちのお寺は日蓮宗』は、令和4年お盆号より『住職のcoffeeタイム』として名前を変え、住職の日常で起こるさまざまな出来事を時には深く、時には楽観的に、思いのままにありのままに。皆さまにちょっと聞いてほしいことを書いていきたいと思います。

奇跡の賽銭箱

盗まれた賽銭箱がこんなカタチで帰ってくる！

5月のある日のこと、妙法寺の受付でお線香代を入れる賽銭箱が何者かによって盗まれてしまい、とても不便で残念に思っていました。しかし、なんとそのお賽銭箱が奇跡的に帰ってきました。その賽銭箱は、盗まれた後、川か海に投棄されたようで、江ノ島の海をプカプカと漂っていたそうです。そこをたまたま通りかかった地元遊覧船「べんてん丸」の船長さんが発見して、引き上げてくださり、親切にも妙法寺まで届けてくださいました。賽銭箱が帰ってきたときにはええも言われぬ感動がありました。運よく、広い海の中で船長さんが見つけてくれて、運よく賽銭箱の裏には「日蓮宗身延山」、先代住職の「久住謙是」の名前が書かれており、運よく拾ってくれた船長さんの同級生が日蓮宗寺院の住職さん。というたぐさんの幸運のご縁に恵まれ、奇跡的に戻って来ることができました。江ノ島と言え、日蓮聖人が首を刎ねられそうになった霊場「龍口寺」があり、先代住職は青年僧の頃、龍口寺で修行時代を過ごしたこともあり、「偶然」という言葉では片付けられない何か深い仏縁を感じております。急にその賽銭箱が尊く感じ、今では本堂にお祀りしてあります。



新しい役職に就任しました

本年度より、日蓮宗の本部での新しい役職を賜りましたので、ご紹介させていただきます。

一、日蓮宗本部企画推進会議委員

日蓮宗の宗門運動や宗門の方向性などを検討する会議の委員

一、日蓮宗新聞社編集委員

日蓮宗新聞にコラムを掲載したり、日蓮宗新聞の充実をはかるための会議の委員

右記の二つの役職は、とても重要な役割であり、襟を正し務めて参ります。会議などでお寺を不在にしたり、法事や葬儀などを他の僧侶にお願いすることもあるかと思ひます。何卒、ご了承頂きますようお願い申し上げます。





VRってなに？

VRとは「virtual reality（バーチャル リアリティ）」の略称で「仮想現実」という意味であります。具体的には、専用のゴーグルで人間の視界を覆うように360度の映像を映すことで、実際にその空間にいるような感覚を得られる技術です。実際には体験できないことを、VR機器を通して仮想世界で体験するもので、近年、ゲーム業界以外でも、ビジネスや医療、スポーツ、安全対策や災害経験など様々な分野で活用されております。

なぜVRで制作したのか

「仏教の歴史＝伝道の歴史」でもあります。仏教は約2500年前にインドで誕生以来、その土地の文化や風土、時代背景と融合しながら様々なカタチに変化し、発展を遂げ、現在へ伝わっています。漢字だらけの経典は庶民には理解できなかったため、仏像や絵画に表したり、僧侶が解説して法話を行ったり、お堂を金色に装飾し浄土世界を表したり、さまざまな方法で、仏教の世界観や教えを人々に伝えてきました。弘法大師空海が曼荼羅を立体にしたのも、恵心僧都源信が地獄絵をリアルな世界観として表現したのも、そのときの革新でありました。「令和」という新しい時代に、新しい伝道スタイルをと発願し、開発に尽力を注ぎました。

地獄にした理由

仏教は私たちの倫理観や道德観に大きな影響を与えていると思っています。小さい頃、「ウソをつくともやこ様（閻魔様）に舌を抜かれるよ！」「悪い行いをしたら地獄に落ちるよ！」と叱られた方も多いのではないのでしょうか。そのように日本の養育の場で培われた倫理観、道德観を現代風にアレンジし、伝えることが新しいスタイルの布教になるのではないかと思います、「地獄」をテーマにしました。

体験してみたい！

現在、妙法寺を中心に月に一度、体験会を開催しております。チケットを購入いただいてのご参加となります。詳しくは地獄VRのホームページをご覧ください。

地獄VRホームページ <https://jigoku-vr.com/>

(このようなメディアに掲載されました)

日蓮宗新聞社/毎日新聞/全国の地方新聞/まいてら（webサイト）

地獄VRが完成しました！

今年の4月に私（住職）が代表理事を務める「一般社団法人 みんなの仏教」で地獄の世界を仮想体験する「地獄VR」を構想から3年、ついに世に出すことができました。そこで皆さまにもご紹介がてら、少し制作に至った経緯をお話ししてみたいと思います。

松下明潤上人が 身延山の信行道場に 出向中！



妙法寺にお勤めしてくれている
松下明潤上人は現在、総本山の身延
山で行われている信行道場で書記
（指導先生）の一人に選任され、
僧侶の卵を育むお役に尽力している
真つ最中です。



信行道場は、日蓮宗僧侶になるた
めの35日間の修行機関で、7名の指
導先生方で運営されています。指
導役としてはまだまだ若手の松下上
人は、道場生よりも大変な修行や経
験をしているのではないかとと思っ
ております。

「誰かを教えている時こそ、一番自
分自身が学んでいる時」「誰かのた
めに尽くしている時こそ、自分自身
のためにもなっている時」。勤務す
る若い僧侶には、妙法寺だけの経験
ではなく、今回のように良き仲間と
共に指導する役割を通じること、
また一回り大きく成長し帰ってきて
くれるのではないかと楽しみにして
おります。

お盆に向けて境内を整備中



現在、お盆に気持ちよくお参りでき
るよう工事を進めております。皆さま
にはご不便をおかけしておりますが、ご
理解の程、よろしくお願いいたします。



妙法寺だよりは、今まで住職が「一太郎」のソフトを使って制作しておりましたが、お盆号より、新しいスタッフとしてお手伝い頂いている南野京子さんが編集して下さることになり、よりクオリティがアップしました。読み応えのある妙法寺だよりを目指して参りますので、ご愛読頂けますようお願い申し上げます。